

まえがき

立教大学構成員の皆さんへ

この冊子『人権』には、人権・ハラスメント対策センターが2015年度に企画・開催した啓発活動の内容が掲載されています。

人権・ハラスメント対策センターは、2006年4月に人権センターとセクシュアル・ハラスメント防止対策委員会が組織統合して誕生しました。以来、当センターは、立教大学における人権意識の向上、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなど人権・ハラスメント問題の起きない環境づくり、そして、個別の相談事案への対応など総合的な取り組みをしてきております。

人権やハラスメントに関する問題は、自分が当事者とならないとその深刻さが理解しにくい面があります。だれにも理解できることでありながらひとつごとのように思ってしまうがちで、日常的に他者の人権への配慮を行うことはむずかしいものです。しかし、相互の信頼関係に支えられた環境であるためには、立教大学を構成する教員、職員、学生ほかすべての方々が人権やハラスメントを自分の問題として関心を持ち続けることが重要です。

一方、自分が当事者として苦しんでいても、それがハラスメントと認識しにくいこともあります。問題の渦中にいると、自分に何が起きているのか自分だけでは整理できないことも少なくありません。また、ハラスメントとわかっているにもかかわらず、どのように問題を解決すればいいかわからないこともあります。そうしたときに気軽に相談できる場所として、池袋と新座の両キャンパスの人権・ハラスメント対策センターには、専門の相談員が配置されており、相談機能の充実をはかっています。

また、当センターは、学内外の多くの方々に人権やハラスメントの問題に関心をもってもらうため、春と秋に「人権週間」を定め、講演会や専門家および監督の講演を含む映画上映会などを開催しています。2015年度は、講演会として、春学期に東京・山谷でホスピスを始められたNPO法人理事長の方、秋学期には、過労死・過労自殺問題に長年取り組まれている弁護士の方を講師として呼びました。また、映画上映会として春学期には、困難な状況を乗り越えて学校に通う子どもたちを描いた「世界の果ての通学路」、秋学期には、すべての子どもに居場所のある学校づくりをめざして取り組んでいる大阪公立小学校の日常を描いたドキュメンタリー映画「みんなの学校」を取り上げました。これらに共通するのは、一人ひとりかけがえのない存在としてとらえ、その人たちに寄り添おうとする姿勢ではないかと思います。それは当センターが大切にしていることですし、皆様一人ひとりに考えていただきたいテーマです。それぞれの内容は、この冊子に収めましたので是非ご覧ください。

当センターは、一人でも多くの方々がこうした企画に参加し、人権やハラスメントの問題に対して関心をもたれることを願っております。これまで一度も参加したことがないという方も、次回は是非参加してみてください。また、この冊子を読んで、以前の講演内容について知りたいと思われた方は、当センターにご連絡ください。

なお、当センターのホームページにて講演会等の開催情報を掲載しますので、是非ご参照ください。

http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/human_rights/

立教大学人権・ハラスメント対策センター長
間々田 孝夫